



オープンソース **マストドン** を用いた 地域防災システム「**DoSoon**[ドスーン]」(仮称)の提案

1. 地域防災システムの必要性(背景)

東日本大震災以来、自治体は地震や地球温暖化によるゲリラ豪雨等災害時の危機管理にどう対応するかという課題に直面している。また、自然災害だけでなく、原子力事故や、世界情勢の変化により日本国土に Jアラート等が発令される局面も想定され、効率の良い情報発信が課題である。

現在、城里町の防災情報を町民に知らせるためには、2005 年、平成の市町村大合併以来問題にはなっていたが、経費の点で新しいシステムが構築されていない。

自然の、あるいは社会的な危機に備えて、自治体には住民にできるだけ多くの安全に避難できる情報を正確に与え、安心な避難場所を提供する義務がある。城里町に関して言えば、従来の対策の他、立命館大学教授 高橋学博士(環太平洋文明研究センター)のアドバイスのもと行政・民間・住民が一体となって課題解決の方法を探っている。

一方で、情報弱者でも安全にかつ簡単に情報の提供を受け、コミュニケーションできるシステムは、これだけ ICT が浸透している現代社会でも全世界的に整備が遅れている。今回は**マストドン**というオープンソースを使い、自由にかつ、柔軟な特徴を活かし、特に緊急時に対応できるシステムづくりという、世界初の提案を行う。

2. **マストドン**と新しい地域防災システム構築の可能性

今年(2017 年)の 4 月から、**マストドン**(Mastodon)というオープンソースのソーシャルメディアプラットフォームが注目され始め、日本をはじめ世界的にはその活用法が盛んに議論されるようになってきている。特に日本ではビジネスレベルの参入の前に、個人が自主的に立ち上げたインスタンス(サーバー)に注目が集まった。この出来事は、従来のツイッターのように中央集権的な、一企業に縛られるものとは違う、誰でも分散型のサービスを立ち上げられるという、ソーシャルメディアのグローバルで新しい潮流を象徴している。一般には**マストドン**で自由かつ多様なサービスができる点は、地域や興味・趣味が同じ人がオンラインコミュニティに集まるため、従来のソーシャルメディアよりも、より、きめの細かいコミュニケーションが可能である。今回は地域が限定できるという点と、オープンソースで改変も柔軟にできる点に目を付け、例えば城里町の自治体内に限定されたインスタンスを立ち上げ、それを地域防災システムとして使うことを提案する。

3. 提案する防災システムの概要

インスタンスは自治体の役場等に置き、専任のオペレータが管理する。情報提供側は電源、装置のバックアップ体制を万全とし、災害時にいち早く自治体の支援につながる工夫をする。また、自治体で閉じたネットワークとし、部外者はインスタンスに参加できないようにし、個人情報の取扱いには十分配慮する。オープンソースを使って自由度を持たせる他、この閉じたネットワークも、ツイッターのような従来のソーシャルメディアを応用するシステムとは違うことが、大きな特徴である。

自治体からの情報は、各戸に配布された、簡易タブレットを通して伝えられる。災害時には、タブレットの電源を自動的に入れ、音声と文字の両方で避難情報等を伝える。タブレットもバックアップやバッテリーなどの機能を十分にする。情報はタブレットに蓄積されるので、後から確認することができ、安全につながる。これは従来の放送等の避難情報提供ではできないことである。お年寄りや子どもでも使えるよう、単純な画面構成にし、基本的にはタッチパネル上のボタンに機能を割り当て、操作性を向上させる。

ボタンの例

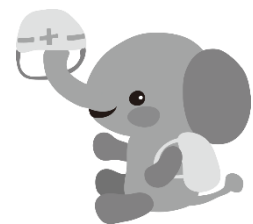
- ボタン 1 役場からのお知らせや避難情報 音声と文字の両方で知らせる
- ボタン 2 物資配送センターから、食材、日用品、調理済食材を届ける
一人住まいの老人の見回りやデマンドタクシーの要請等
日常生活の支援に対応
- ボタン 3 タブレットの相互画像通信機能を使っての友人との交流(おしゃべり)呼び出し
- ボタン 4 各戸の個人の緊急時呼び出し

以上

本プレスリリースに関するお問い合わせ。

城里 ICT チーム

- ・代表者 河原井 大介((有)グリーン工房)
茨城県東茨城郡城里町小坂 859
電話 090-5529-5277(河原井)
- ・技術担当 松浦 弘智(クラフトパイン)
- ・Email team@cylosat.com
- ・Web <http://cylosat.com/team>
システム導入等については、Web サイトをご覧ください



(さいぞうくん)